



経済倫理と諸宗教の循環性

経済倫理、宗教、倫理学、経済学の循環的構造と相互関係

発表者：洪吉童

所属：〇〇大学校

〇〇学科 2023年6月

22日



目次

- 1  経済倫理と宗教の関係
- 2  倫理学の体系と経済学
- 3  現代の経済倫理思想
- 4  諸宗教の循環論理
- 5  宗教別の永生観と経済観
- 6  フラクタル構造と相関性
- 7  経済学派と宗教思想の連携
- 8  結論および現代的意義



倫理学、経済学、宗教の循環的相関構造の探究

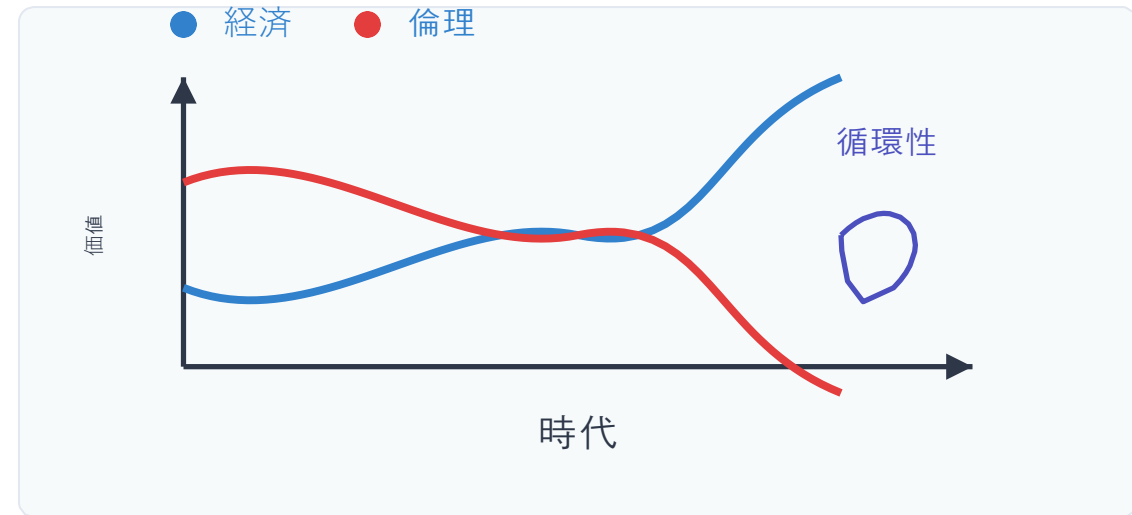
経済倫理と宗教の循環性：序論

宗教の経済思想は、抽象的な宗教思想を具体化して表現する核心的な宗教の構成要素です。宗教は経済思想として表現されるとき、その隠された意味を把握することができます。

経済と倫理はヤヌスのように相反しながらも同時に現れる密接な関係。経済の逆が倫理であり、倫理の逆が経済であると言えるほど密接な関係にある。宗教の経済思想は主に倫理学的な形態で現れる。

● 宗教、経済学、倫理学の関係は、まず日常に近い倫理学を中心に体系を立てた後、経済学との関係を照明し、再び宗教と関連づける順序で見えていくことができます。

図2.1：経済と倫理の歴史的推移



経済と倫理は歴史的に長期関数のような関係を示してきた

核心概念

経済と倫理は相反する形態で頻繁に現れながらも互いに補完的な関係にあり、これは宗教的文脈においてより明確に現れます。

倫理学の体系と経済学の関係

倫理学は時代順に三つの伝統を持っています：

- 徳（卓越）を強調するアリストテレスの倫理学
- 正（正、正義）を強調するカントの義務論的倫理学
- 善（善、効率）を強調する功利主義的倫理学

表2.1：倫理学の体系

評価対象 \ 価値概念	基本的価値	操作的価値言語	究極的目的
行為	善（善）	効率	効用
制度	正（正）	正義	権利
存在	徳（徳）	卓越	能力

経済学も倫理学と同様に、行為（善-限界効用学派）、制度（正-制度学派 / 歴史学派）、存在（徳-贈与論的経済学）の三つの課題を中心に理論を展開します。

図2.2：課題の構成

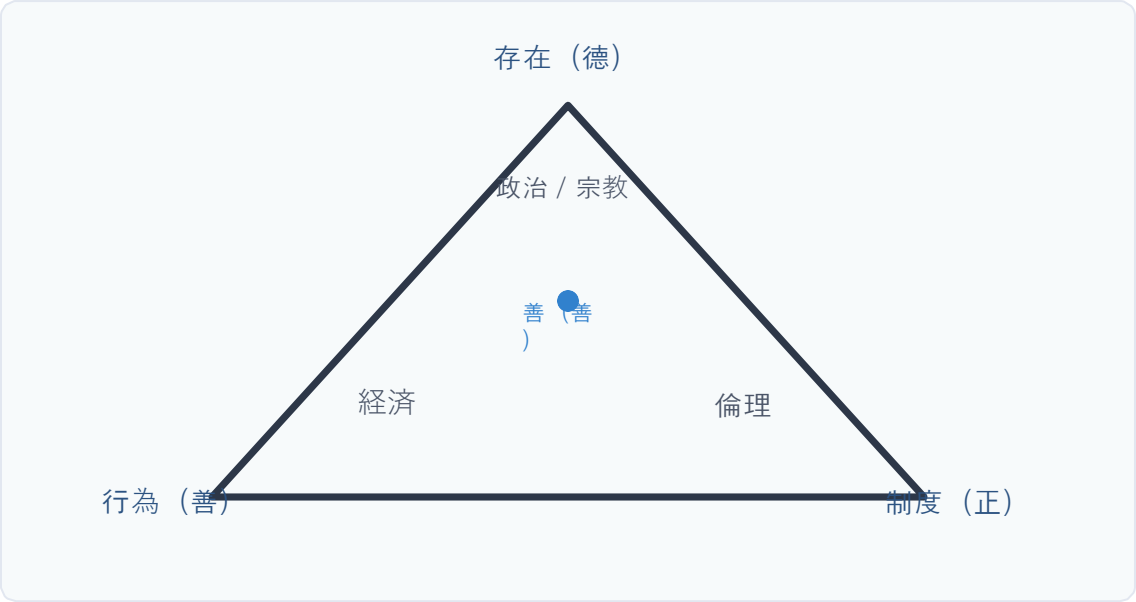
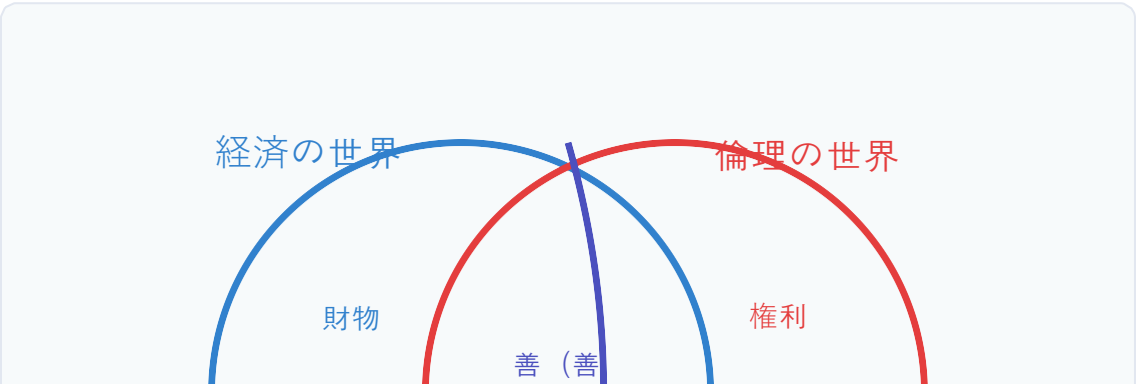


図2.3：経済の世界と倫理の世界の統合



現代の経済倫理思想の四つの潮流

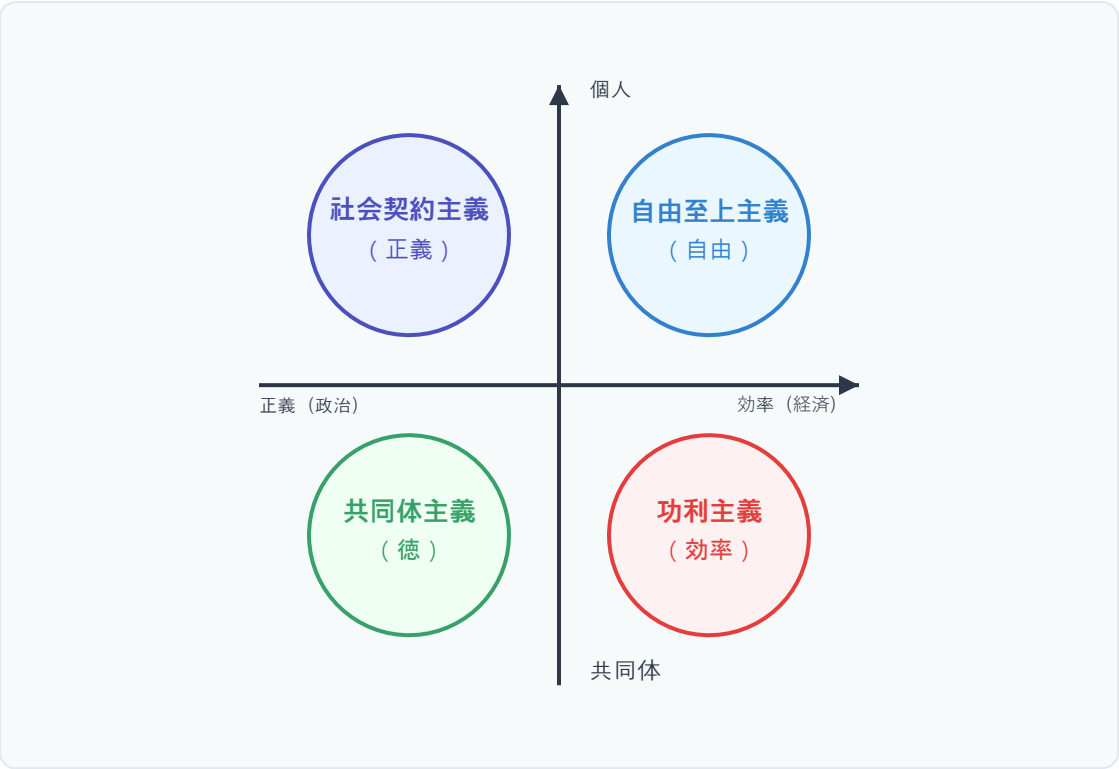
現代の経済倫理思想は四つの主要な潮流に分類することができます：

- 功利主義：最大多数の幸福を追求、効率を強調
- 社会契約主義：カントの義務論に基づき、個人の権利と正義を強調
- 自由至上主義：個人の自由を最優先、最小政府を追求
- 共同体主義：共同体中心、徳（徳）と実用性を強調

表2.2：現代道徳哲学の位相

方法 \ 価値	善（善）-制度内の秩序	正（正）-制度の基礎構造
個人主義	市場均衡論（理論経済学）	社会契約主義（正義）
	自由至上主義（自由）	
全体主義	功利主義（効率）	共同体主義（徳）
	制度進化論（歴史学派経済学）	

図2.4：四つの経済倫理の関係



四つの経済倫理思想の特徴

- 自由至上主義：個人、効率

功利主義：共同体、効率
- 社会契約主義：個人、正義

共同体主義：共同体、正義

諸宗教の循環論理（ 儒仏道 / 西教 ）の構造

宗教思想の教理体系にある循環論理の構成を通じて、諸宗教の経済倫理を理解することができます。循環的論理が表現しうる論理の枠組みは限られているため、東西洋の宗教思想は儒仏道と西教に集約されます。

Ⓜ 儒教（ 儒教 ）

XはXであり、-Xは-Xである

「君主（X）は君主（X）らしくふるまい、臣下（-X）は臣下（-X）らしくふるまうべきである」

「知ること（X）を知る（X）とし、知らないこと（-X）を知らない（-X）とすること」

≡ 道教（ 道教 ）

Xは-Xであり、-XはXである

「道（X）を道（X）と呼べば道ではなく（-X）」

「最も強いもの（X）は最も弱い水（-X）であり」「友（X）は仇（-X）であり、仇（-X）は友（X）である」

⦿ 仏教（ 佛教 ）

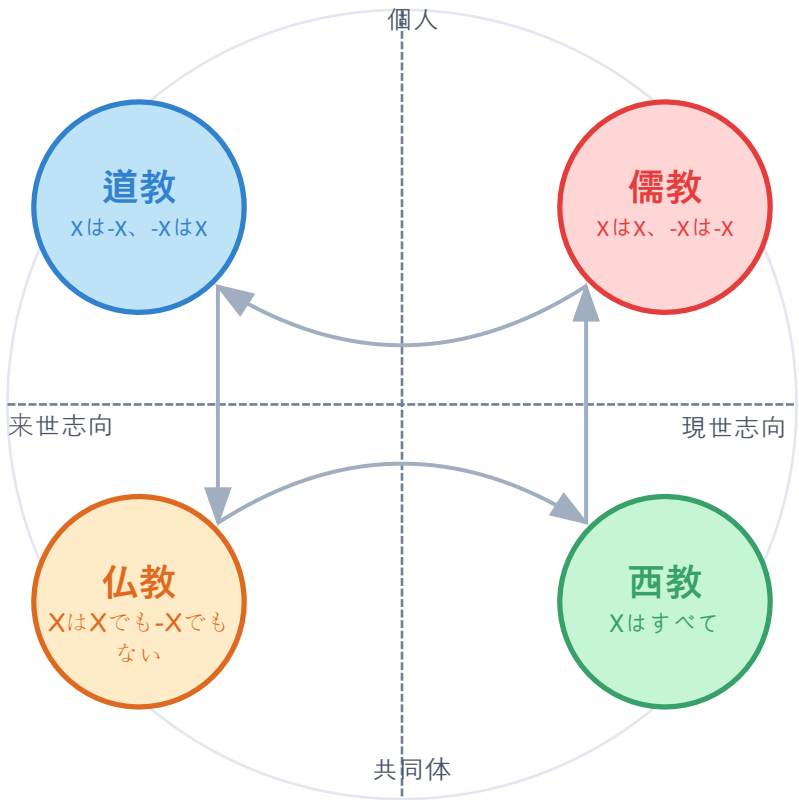
XはXでも-Xでもない

「『友（X）も仇（-X）もなく』すべては空（空）である」「物質と精神の区別がなく、我と汝の区別がなくなる」

⊕ 西教（ 西教 ）

Xはすべてである

図2.5：諸宗教の相関関係



各宗教の論理構造は相補的（相補的）関係をなし、循環的構造を形成します

宗教別の永生観と経済観

諸宗教は、志向する永生の形態と個人 / 共同体、来世 / 現世の志向性に応じて四つに分けて見ることができます。

儒教：招魂再生（招魂再生）

父と子、君主と子という人倫における循環を通じた再生の追求
物質は物質であり、精神は精神であるという論理 - 来世よりは現世、個人よりは共同体を志向

道教：肉身永生（肉身永生）

自然の理にかなう無為自然の循環を通じた肉身永生の追求
精神が肉体であり肉体が精神であるという論理 - 現世志向的な個人中心主義

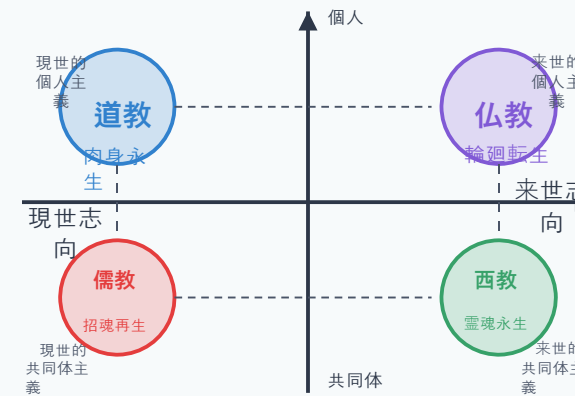
仏教：輪廻転生（輪廻転生）

縁起論による法輪における万物の循環を通じた輪廻転生の追求
肉体と精神の区別がなくなる論理 - 来世志向的な個人中心主義

西教：靈魂永生（靈魂永生）

神と人間共同体の間の十戒に立脚した契約的循環を通じた永生の追求
個人より共同体、物質よりは精神を追求 - 来世志向的な共同体中心主義

図2.6：諸宗教の永生観の相関関係



宗教と経済観の連関性

道教 → 自由至上主義

財富論的な経済循環、個人的な自由の追求

儒教 → 功利主義

生産中心、最大多数の幸福の追求

仏教 → 社会契約主義

公平な分配、義務的倫理

西教 → 共同体主義

流通と贈与、博愛（博愛）の精神

経済観との連携

各宗教の永生観は経済観（財富観、労働観、財貨観、分配観）へと連結され、これはさらに各経済倫理思想と連結されます。

フラクタル構造と相関関係

フラクタル (fractal, 相同性) とは互いに似た構造を意味し、全体と部分が類似したパターンを持つ自己相似性を特徴とします。宗教、経済、倫理の関係においてもこのようなフラクタル構造が見出されます。

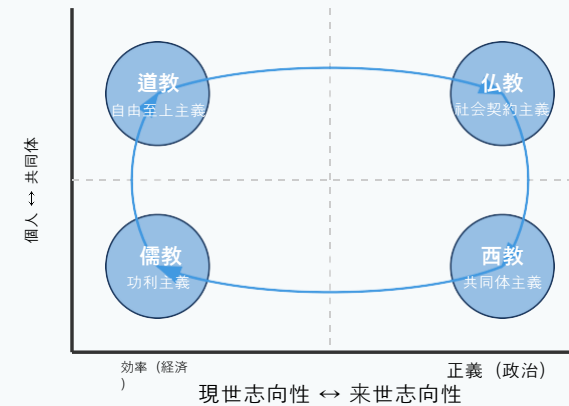
万物は互いにフラクタルのように類似した関係を示し、とりわけ宗教と関連する経済と倫理はさらにそうである

現代科学においても最も小さい原子と最も大きい銀河が類似した構造を持つ 循環論では万物がすべて循環し、互いに待対性を帯びる構造は類似する

創発主義的アプローチ

万物を分割して究極の粒子を見出す還元主義の方法とは異なり、万物の関係のなかで法則を見出す創発主義的かつ全一（全一）論的な方法を通じて、経済倫理と宗教の相関性を理解することができます。

図2.7：宗教と経済倫理の相関関係



経済倫理と宗教思想の相関関係は、フラクタル構造のように互いに類似したパターンを示す

[図2.4] 四つの経済倫理の関係と [図2.5] 諸宗教の相関関係は、共通の軸（個人-共同体、効率-正義 / 現世-来世）を共有し、互いに類似したフラクタル構造を形成します。

経済学派と宗教思想の連携

表2.3：宗教-経済倫理-経済理論の対比表

	貯蓄	生産	流通	分配
宗教	道教	儒教	西教	仏教
経済思想	自由至上主義	功利主義	共同体主義	社会契約主義
経済観	財富観	労働観	財貨観	分配観
経済学	新古典派	ケインズ主義	制度学派	古典派 / マルクス主義
価値理論	使用価値	記号価値	象徴価値	交換価値

図2.9：宗教と経済観の相関関係

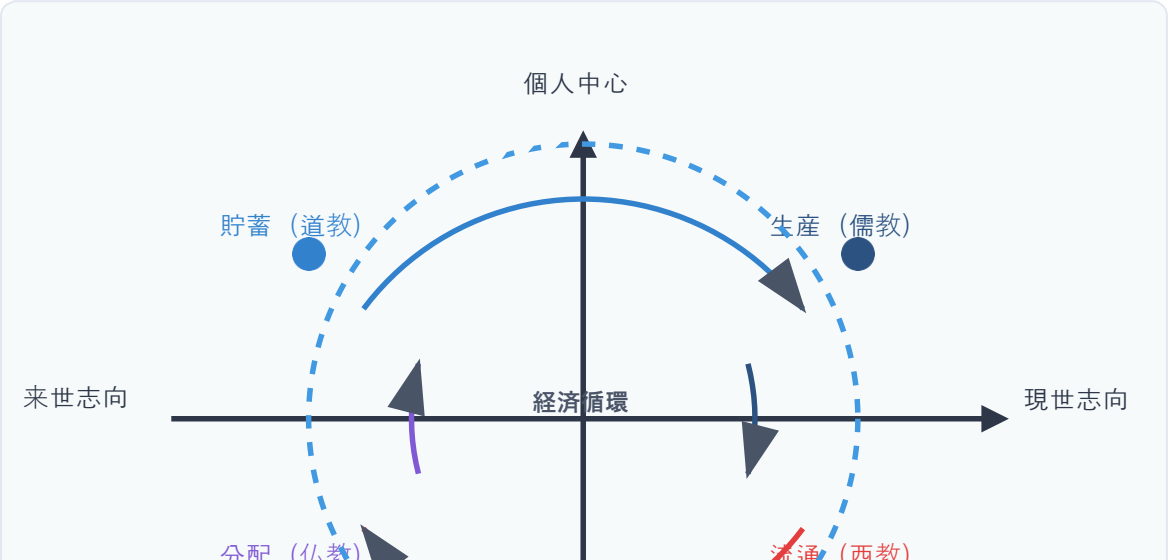
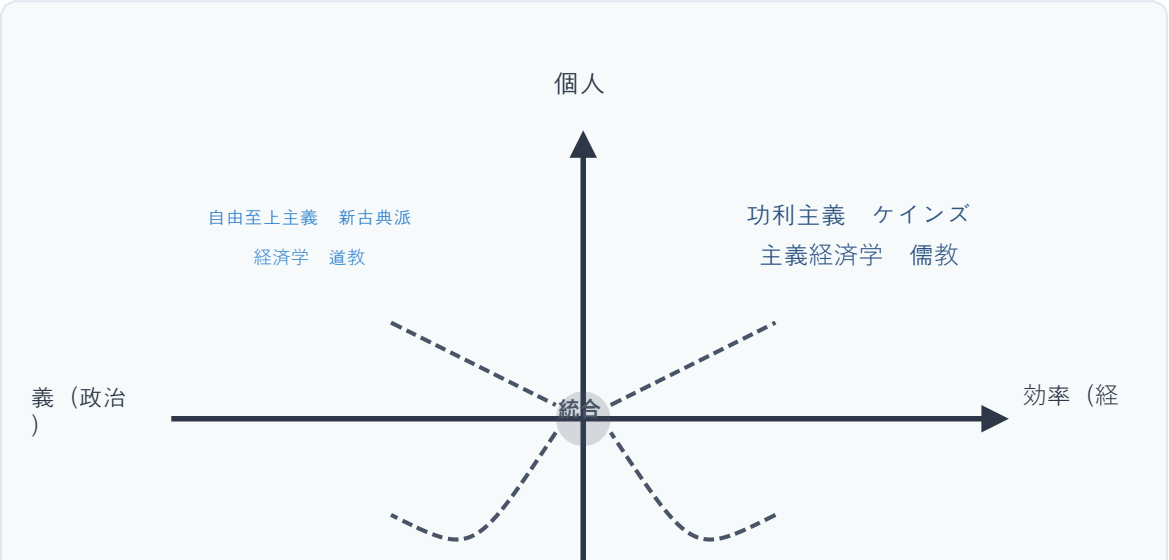


図2.11：宗教と経済倫理、経済学の相関関係



要約および結論：東西の経済倫理・宗教の循環性

東西の経済史と宗教的循環性を考察した結果、各宗教と経済思想は密接な相互影響関係にあることを確認しました。

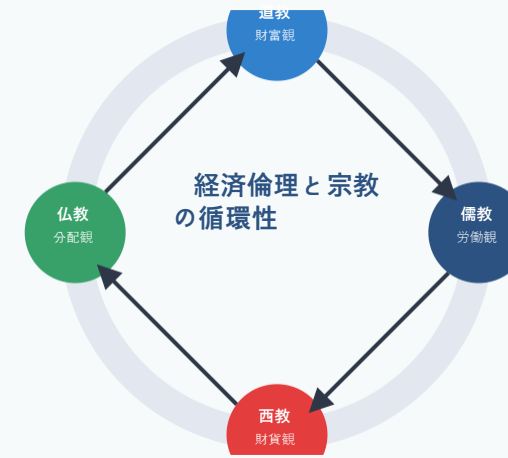
- 西洋資本主義は、道教的財富観と類似したカルヴァンのプロテスタンティズム的財富観から出発
- 中国から伝わった儒教的富国強兵論によって西欧資本主義が発展
- 富国強兵策により東洋的循環性が破壊され、神の救済の約束としての財貨という西教的循環も破壊

現代は物質至上主義と賭博資本主義へと変貌し、これを救う循環的宗教思想と経済倫理が必要

経済倫理と宗教の循環性は、単なる理論的構造ではなく、持続可能な人類社会のための実践的知恵の源泉となりうます。

※ 本研究は、宗教－経済倫理－経済理論の相互関連性に関する学際的研究の基盤を提示します。

総合：宗教と経済学の循環的構造



総合分析

経済倫理と宗教は、貯蓄（道教）、生産（儒教）、分配（仏教）、流通（西教）の経済循環過程においてそれぞれの特性を発揮し、これらの調和的統合が現代社会の持続可能性のための代案となりうます。

参考：表2.3 宗教－経済倫理－経済理論対比表